

総括

■ 種別

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」を適用して審査を実施した。

■ 認定の種別

書面審査および11月12日に実施した訪問審査の結果、以下のとおりとなりました。

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」 認定

■ 改善要望事項

高度・専門機能「救急医療・災害時の医療」
該当する項目はありません。

1. 病院の特色

病院の基本方針に救急と国内外の医療救助活動を掲げ、病院全体として、救急医療・災害時の医療に力を入れ、地域の中心的な役割を担っている。福岡地域メディカルコントロール協議会、事後検証会、南区地域医療・病診連携合同懇話会等に参加し、地域連携体制を構築していることは評価できる。また、救急隊員に対して、救急ワークステーション運用、救急救命士の就業前病院実習を行い、合同症例検討会を開催し、救急救命九州研修所でも講義、シミュレーション評価に当たっている。さらには、地域医療スタッフや地域住民へ心肺蘇生教育を行っている。

2. 地域の救急医療を支える効果的な仕組み

前述の地域の種々の救急、消防関連の会議、教育に参画し、地域連携を確立し、市民公開講座等も開催し、地域の救急医療レベルの向上に貢献している。救急スタッフが限られる中、全診療科、多職種で協力し救急患者を受け入れ、救急隊からの電話は救急科医師が直接対応して年間約5,600件の救急搬送患者を収容し、93%と高い応需率は評価に値する。また、患者リストが整備され、不応需ワーキングにより不応需例の検討を行い、改善に努めている。今後、転院搬送手順書、診療科別対応可能医療機関リストが整備されると、より効率的な運用が可能になるものと考えられる。

3. 救急医療への適切な対応

救急科専門医3名を含む救急医5名と研修医4名によって、2交代性シフト体制で運用している。また、認定看護師が適切に配置されている。薬剤師、放射線技

師、検査技師が常時院内に配置され、臨床工学技士はオンコール体制で対応している。診察室、陰圧診察室、救急専用CT、撮影室等が整備され、検査機器も配置されている。組織図については、医師、看護師以外の薬剤師、栄養管理士、リハビリテーション療法士など他職種も含めた、実際の運用に即した形にすると理解しやすいように思われる。

救急医が5名のみで、2交代シフト性のため、重症患者に十分対応できない可能性があり、また、研修医の負担が重いように見受けられるので救急医の増員を検討されたい。さらに、今後、特定認定看護師の育成も目指されることを期待したい。

4. 救急部門の質改善に向けた取り組み

救急医療を実践するための救急医療マニュアルや看護師の業務マニュアルも整備され、必要に応じた改定も為されていることは評価できる。救急センターの外来部門を主に担当する臨床初期研修医に対して、勤務終了時に症例検討（振り返り）を実施し質向上に努めている。急患対策委員会を毎月開催し、また、最近は、不応需対策ワーキングを立ち上げ、救急診療の質改善に取り組みつつある。

自院の「救急医療における臨床指標（アウトカムならびにプロセス指標等）」を導入し、救急領域における疾病登録活動への参画を含めた客観的な救急医療の質改善に向けた計画とその実行が期待される。そのために、医療事務作業補助者の増員も必要と考えられる。

研修医カルテへの指導医のサイン、コメントが一部で実施されていないので、救急外来部門における電子カルテ記録の適正な記録・運用が求められる。また、外来診療を総括したサマリーが作成されると、入院後の診療に一貫性のあるフローチャートとして理解しやすくなると思われる。

5. 災害時の適切な対応のための体制

災害拠点病院として、理念の一部にも「災害対応」を掲げられ、災害時の対応方針、BCPが策定されている。訓練も定期的に実施し、問題点や課題の検証を通して計画の改変を行い、実効的な計画策定を継続することに努めていることは高く評価できる。院内に災害コーディネーターが3名おり、また、職員の意識も高く、地震発生時には、多数の職員が自主参集している実績がある。地元医師会等と会議や研修、訓練を行い、地域全体の災害対応能力向上に寄与している。

多数傷病者発生時の院外派遣体制は既に確立されており、多数の派遣実績を有している。また、派遣に関わる職務規程も整備され、個人装備、活動資器材、移動車両等の災害支援活動への備えは万全である。派遣活動に対する後方支援体制も確立しており、その能力は優れている。

CBRNE 災害対応マニュアルを策定し、専門知識を有する職員を配置して二次災害防止や安全管理に関わる教育を行っている。また、救急外来に除染設備や用具も整備され、必要に応じて院外派遣をするための体制も整えていることは評価できる。ただし、CBRNE 災害対応マニュアルを整備してから院内周知が十分とは言えない現状があり、今後一層の充実を図られることが期待される。

1 地域の救急医療を支える効果的な仕組み

評価判定結果

1.1	救急部門の地域における役割、基本方針と連携体制	
1.1.1	地域における役割を踏まえた救急部門の運営理念・運営方針を明確にしている	Ⅱ
1.1.2	地域における役割と連携体制が適切に定められている	Ⅱ
1.1.3	地域における役割と連携体制の改善に努めている	Ⅱ
1.1.4	地域および他施設の医療従事者・救急隊員などの教育に関与している	Ⅱ
1.2	救急部門の体制の確立	
1.2.1	救急医療を提供するための組織体制が確立している	Ⅲ
1.2.2	救急部門に必要な人員が確保されている	Ⅲ
1.2.3	救急患者の記録入力支援体制が確立している	Ⅲ
1.2.4	救急医療に必要な施設・設備が整備されている	Ⅱ
1.2.5	救急患者を受け入れる病床が確保されている	Ⅱ

2 救急患者への適切な対応

評価判定結果

2.1	チーム医療による診療・ケアの実践	
2.1.1	救急患者を適切に受け入れている	Ⅱ
2.1.2	救急患者受け入れ後の対応が適切に行われている	Ⅱ
2.1.3	緊急時の検査・診断に迅速に対応している	Ⅱ
2.1.4	救急患者の手術を適切に実施している	Ⅱ
2.1.5	救急患者の受け入れや対応における危機管理が適切に行われている	Ⅱ
2.1.6	救急部門において早期のリハビリテーションを適切に行っている	Ⅱ
2.1.7	救急医療の記録を適切に記載している	Ⅲ
2.1.8	患者・家族への配慮や指導がなされている	Ⅱ

3 救急部門の質改善に向けた取り組み

評価判定結果

3.1 質改善に向けた取り組み

3.1.1	救急医療に関する教育・研修を行っている	Ⅱ
-------	---------------------	---

3.1.2	診療の質向上に向けた活動に取り組んでいる	Ⅱ
-------	----------------------	---

3.1.3	救急医療の質改善に必要なデータを活用している	Ⅲ
-------	------------------------	---

4 災害時の適切な対応のための体制

評価判定結果

4.1 災害時の医療支援と院内受け入れ対応のための体制

4.1.1	地域における役割を踏まえた災害時の対応に関する運営理念・運営方針を明確にしている	Ⅱ
-------	--	---

4.1.2	多数傷病者発生時の院外派遣体制が整備されている	Ⅱ
-------	-------------------------	---

4.1.3	多数傷病者発生時の院内受け入れ体制が整備されている	Ⅱ
-------	---------------------------	---

4.2 特殊災害への対応

4.2.1	病院の指定された役割分担に基づく特殊災害への対応のための体制が整備されている	Ⅱ
-------	--	---